

特別講演 2

「睡眠時無呼吸症候群の診断と治療のコツについて」

金沢市立病院呼吸器内科科長

中積 泰人 先生

睡眠時無呼吸症候群 (SAS) はいびき・無呼吸が特徴ですが、多くは肥満が原因で、無呼吸に伴う間欠的な低酸素血症、胸腔内圧低下、頻回の覚醒反応が問題となります。間欠的な低酸素血症は動脈硬化による心筋梗塞や脳血管障害を引き起こし、交感神経等を介して高血圧や糖尿病の発症・悪化を合併させます。胸腔内圧の低下は心筋肥大を生じさせ、夜間頻尿をもたらします。頻回の覚醒反応は慢性の睡眠不足を引き起こし、仕事での集中力・意欲の低下、産業事故・交通事故の発生の原因であり、SAS は代表的な睡眠障害のひとつです。このように SAS はメタボリック症候群や生活習慣病の悪化や大きな社会的な事故に関係します。今回の講演では、SAS の診断と治療法の実際や問題点、睡眠医療の実際などを中心に実践で役立つような内容の講演をしたいと考えています。